

令和3年度 島田樟誠高等学校 学校評価書

教育目標

自ら求めて学ぶ自主自律の精神を養い、心身を鍛えるとともに、校訓「誠、愛、勇」の下に人格の完成をめざす。

教育方針

- 1 充実した学校生活を送るために明確な目標を持たせる。
- 2 学習に積極的に取り組む姿勢を育て、学力を向上させる。
- 3 部活動などに積極的に取り組み、心身共に健やかな成長を図る。
- 4 思いやりの心や規範意識を育み、社会性を身に付けさせる。
- 5 進路意識を高め、組織的・系統的な指導を通して進路目標を達成させる。

令和3年度における学校経営方針と具体的目標

学校経営方針	具体的目標	自己評価	成果と課題	関係者評価
教育課題の解決に積極的に取り組む。	目指す学校像や育てたい生徒像についての共通理解を深め、実現のための具体的な対応方針を講じる。	B	「知識・技能を身につける」、「新しい自分を発見する」、「人間性を高める」、という具体的な目標に基づいて教育活動を展開した。令和4年度入試においては、特に志穂地区において令和3年度定員割れで易化傾向となった公立高校への志願者が増加したため単願者が減少した(1/28 出願〆切時点、単願者 226 人、併願者 437 人)。ただし共学化4年目となり女子中学生からの人気は高く、単願者 82 人と昨年度を上回った。本年度の転退学者数(R2 年度 19 人→R3 年度 7 人)は、前年比で12名減(1/26 現在)となり、カウンセリングの充実等生徒へのきめ細かな指導が成果となって表れている。	A
	キャリア探究コース、進学探究コース、特別進学コースの設置の趣旨を踏まえ、進路目標を達成させるための教育活動を推進する。	A	R4 年度実施の新教育課程は昨年度編成が終了したが、今年度も検討委員会を開催し若干の変更を行った。またキャリア探究コースの進学希望者への対応を検討し、R4 年度から学校設定教科「総合選択」に、進学希望者用講座を開講することとなった。さらに R4 年度新教育課程実施に向けカリキュラムマネジメントについて検討した。	
	部活動等に全力で取り組み、心身を鍛え達成感が持てるように指導する。	A	本年度は 68%の生徒が部活動に所属し積極的に活動している。(R2 年度 62%) 公式戦(高校総体、新人戦、選手権等)では、卓球部が学校対抗の部で総体男 4 位、新人戦女 3 位で、それぞれ東海大会に出場した。また陸上競技部(ハンマー投げ)も総体 5 位で東海大会に出場した。またバレーボール部は総体で県 4 位となり、東海大会出場まであと一歩であった。それ以外でも柔道部、弓道部、剣道部、バドミントン部、水泳部、サッカー部	

			が県大会に出場した。	
	男女共学校としての特性を活かす教育活動を推進する。	A	学習指導、生徒指導、部活動等の教育活動において共学校として4年めを迎え充実した教育活動を行った。女子生徒の増加が顕著であり（R2年度156人→R3年度185人）、部活動でも女子の活躍が目立っている。特に女子卓球部は県3位で、あと一歩で全国という活躍であった。また女子の増加を踏まえ、R4年度からサッカー部、バスケットボール部において女子部員の募集を決定した。部活動以外の課外活動でも、毎月1回FM島田の番組「ハイスクールラジオ」に生徒6人（男子3名、女子3名）が出演し、本校をPRした。また「島田市高校生ラジオ、お仕事訪問」、「島田市平和祈念事業」、「島掛信主催年金者用贈答飴のパッケージデザインプロジェクト」などの探究活動に積極的に参加した。さらに今年度の生徒会長選挙で共学化再開後初の女性生徒会長が誕生した。	
目標意識を育てる。	学校生活の様々な分野における具体的な目標を持たせる。	A	各学年、分掌、教科ごと生徒たちに具体的な目標を持つよう呼びかけを実施している。特に全HRでクラス目標を年度当初に定め、教室掲示を行っている。教育課程では、全学年で週1時間実施の「夢実現プロジェクト」において、学年と進路課が連携したオリジナルの進路指導プログラムを実践した。また各学年ごとに進路説明会を実施し、進路意識の高揚を図った。さらに2年生では希望者を対象に長期休業期間を利用したインターンシップを実施した。	A
	目標達成の手掛かりとして資格試験や検定試験等に積極的に挑戦させる。	A	授業や夏季講座において漢字、英語、数学、日本語ワープロ、情報処理、表計算、文書デザイン、パワーポイント、フォークリフト、危険物取扱等の検定試験や講習の対策を行い多くの生徒が挑戦し資格を取得した。本年度も、英語検定、漢字検定において難関とされる2級の合格者（英検4人、漢検7人、1/28現在）が出ており、他生徒の刺激となった。	
学習指導を充実する。	校内や校外の研修に積極的に取り組み、授業の質を高める。	B	今年度も研修委員会が中心となって若手教員に対する研修会を毎週（月3回程度）実施した。若手教員は研究授業を実施し授業力の向上を図った。また全職員対象に進路指導力向上のため小論文講座（9/6）を実施した。また県私学協会主催の研修（5年研、10年研、リーダー研）に参加した。またオンラインによる研修システム「Findアクティブラーナー」により、全職員が日常的に研修に取り組んだ。さらにICT教育推進のため複	B

			数職員が先進中学・高校を訪問した。
チャイムと同時に授業を始め、授業に真剣に取り組む姿勢を育てる。	B		教務課が中心となってチャイムと同時の授業開始を呼びかけた。クラスや授業担当によって若干の温度差があるものの、ほぼチャイムと同時の授業開始ができた。授業中集中力を欠く生徒の指導については、クラスや教科によって現れが異なっているが、特に学年部で情報共有を密にし、改善に向け組織的に指導した。今年度関係者評価委員による授業見学会を実施（11/19）した。委員による評価は概ね良好であった。
分かりやすい授業による基礎学力の習得と発展的な学習指導によるハイレベルな学力の定着など、進路や個に応じた学力の伸展を図る。	B		若手研修の一環として3人が研究授業、授業検討会を行った。該当教科以外の教員も多数参観した。ICT教育推進のため2年1クラス、1年2クラス生徒全員分、及び希望する職員分のタブレット端末を整備した。基礎学力定着を意図した全校漢字テストは2月までに予定どおり年8回実施した。マナトレ（数学の学び直し）も例年同様実施した。また「学びの基礎診断」としてベネッセコーポレーションの基礎力診断テストをキャリア探究コース、進学探究コースにおいて全学年で実施した。特別進学コースは、大学共通テストを視野に入れ進研模試、全統模試を実施した。また系統的、計画的な学習を進めるため生徒全員に全科目用シラバスを配布し、授業目標、指導計画、評価方法等を明示した。
朝読書等を通じて読書の習慣を身に付けさせ、語彙力・読解力を向上させる。	A		年間とおして毎朝10分間の朝読書を実施したため読書習慣が身についた。図書課、図書委員会が中心となって、読書への興味を喚起するため、生徒一人一人に読書記録を記入させた。またより熱心に読書に取り組んだ生徒を「読書王」として表彰した。一方国語科が中心となって夏季休業中、生徒個々に読みたい本を注文させ読書させる取組は、多くの生徒から好評であった。
学校生活全般を通して、コミュニケーション力を向上させる。	B		コミュニケーション力向上のため「総合的な探究の時間」「夢実現プロジェクト」の授業を積極的に活用した。3年生は進路集会を年間6回実施し、グループごと本校職員と面接練習を行った。また7月16日（金）3年生を対象として外部講師を招聘して実践的な面接指導を行った。さらに3年キャリアコース「総合選択」情報系選択者18人が社会人として必要なコミュニケーション力習得を確認する「社会人常識マナー検定」を受検した。一方発達障害等コミュニケーションに課題を抱える生徒が少なからず在籍しているが、令和2年度か

			ら Find アクティブラーナーによるオンライン研修を実施し、配慮の必要な生徒へのアプローチ方法を積極的に研修している。	
生活指導を徹底する。	人を思いやる心を育て、ルールやマナーを守る意識を高める。	B	日常的な指導呼びかけにより意識の向上は見られる。生活指導を受けた件数が前年比で8件減少する(R2年13件→R3年5件)など(2/1現在)成果が表れている。また自転車マナーアップのため交通安全委員生徒と職員が年2回(5月、10月)街頭指導を行った。一方自転車のイエローカードについては、依然として違反件数が多く、更にきめ細かく取り組む必要がある。人間関係のトラブル、SNS上でのトラブル等も見受けられ、教員の指導意識の変革と迅速な対応が求められる。そのためにも全校をあげて高校生活の基本となる「人間性を高める」という課題の共有化が必要である。	B
	自主的に、明るく、さわやかな挨拶をするように指導する。	A	運動部活動での挨拶指導や、朝の登校指導等が功を奏し、多くの生徒が気持ち良い挨拶をしており、地域からも評価されている。	
	規則正しい生活習慣を確立し、欠席、遅刻をしないよう指導する。	B	毎朝、正門、西門、生徒昇降口で管理職、学年主任、生徒指導主事、担当者が登校指導を行い、またクラス担任が遅刻、欠席が多い生徒には家庭と連絡を取りながらきめ細かく指導している。更に生徒指導課を中心に8:25登校を奨励している。特に月ごと登校指導強化週間を設け、6月から2月まで5回実施した。いずれもメール配信により生徒、保護者に周知を図るなど学校と家庭が連携した。また遅刻欠席連絡をコクー(個別メール方式)に一本化したため、担任は状況を的確に把握でき、個別指導が円滑に行われるようになった。	
	服装・頭髪の指導や交通安全の指導を徹底するとともに、場をわきまえた正しい立ち振る舞いができるよう指導する。	B	計画に基づいて、学期に1回、生徒指導課が主催して全校一斉頭髪服装(眉・ピアス)検査を実施し、また月1回、学年における頭髪服装検査も行った。検査に合格できるまで指導を重ねることにより、服装、頭髪等に関しては良好な状態にある。交通安全指導は、地域、警察とも連携するとともに、生徒会の交通安全委員会も積極的に活動した。	
	全教職員が共通認識を持ち、統一感のある生徒指導を行う。	B	生徒指導部会を毎週水曜日の放課後実施し、統一感のある指導をこころがけた。毎月運営委員会に学年主任が生徒状況を説明し、現状と課題の共有化を図った。	
進路指導	体系的な進路指導	A	例年どおり「進路のしおり」を発行し1年次から計	A

を充実する。	体制を確立し、早期に進路目標を立てさせる。		画的なプログラムにより指導した。また全学年で「夢実現プロジェクト」の時間を使って進路指導課と学年部が連携して探究的な学習を取り入れ進路指導に役立てた。3年部では進路サポーター制による進路集会（年間6回）を全教員で実施し丁寧な進路指導を行った。男女共学も4年めとなり、女子生徒の出口指導を丁寧に行った。特に今年度はキャリア探究コース初の女子卒業生であるが、2月1日現在26人中25人が進路決定することができた。	
	進路意識を高め、目指す進路目標を達成させるために組織的な指導を強化する。	B	進路決定状況は、1月24日現在で4大進学58人(23%)、短大進学6人(2%)、専門学校等85人(33%)、就職100人[39%]、未定7人(3%)となっており、確かな実績を上げることができた。進学指導では、各大学、短大、専門学校の特徴を理解させるとともに、入試制度や入試科目研究にも力を入れて指導している。特に進路実現に大切な2年次において外部人材を招き、進路希望ごとに説明会を実施した。特別進学コースでは、2月1日現在の進路決定者は13人中8人、うち7人(54%)が国公立大学に合格している。特に小論文担当の献身的指導が、総合型選抜、学校推薦型選抜合格に大きく寄与している。未決定者も国公立2次試験に向けて学習を継続させており、学習の成果がしっかり表れている。	
	進路指導に関する資料の充実と整備を図る。	B	進路閲覧室に進学用、就職用の資料が整備されており、生徒、職員が随時利用している。今年度も受験者が作成した大学等の入試や就職試験の報告書を回収し、データの蓄積に努めている。進学については生徒の希望に応じて個別の大学赤本を整備した。特に1,2年特進生からの意見を吸い上げるとともに、これまでの実績を考慮した。就職についてはコロナ感染症対策のためのリモート会社説明会についても2年めとなり職員の指導スキルも向上し、スムーズに対応できた。	
安全や健康に関わる教育を推進する。	安全や健康に配慮した環境の整備を図る。	A	保健委員会の生徒が健康に対する啓発のための「保健便り」をほぼ毎月発行し、2月1日現在7号(年間9号)まで生徒職員に配布した。流行性疾患については養護教諭を中心に早めに対応している。状況としてインフルエンザなし、感染性胃腸炎1、アデノウイルス1、マイコプラズマ1など、数は少なかった。また職員衛生委員会をここまで10回開催(年間11回予定)し、職場環境の改善に努めた。	A

	健康についての関心を高め、新型コロナウイルスの感染予防など日常の健康管理ができるよう指導する。	A	本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため「健康観察記録用紙」を全生徒に毎月配布、回収し感染予防に努めた。またマスク着用やゴミの取り扱いについても日々きめ細かく指導した。実際にコロナ感染者が8,9月と1月に複数人判明したが、聞き取りを行い濃厚接触者を調査するとともに必要に応じて出校停止措置を行った。その際、学校全体で感染時の対応をマニュアル化したため迅速に対応できた。また新しいメール配信システムを導入したことで保護者、職員に必要情報を速やかに連絡できた。	
	地震等の災害に対する防災意識を高めるため、防災訓練等の方法を工夫する。	B	今年度は避難訓練を2回実施(6/10、10/20)した。2回とも実際の災害を意識して授業時に抜き打ちで行ったが、生徒職員ともに慌てることなくマニュアルどおり冷静な避難行動を行うことができた。特に避難経路の周知を徹底し掲示を見やすく工夫した。地域防災訓練については担当からの参加呼びかけを行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の時期と重なったため訓練そのものを行わない地区が多かった。実施した地区における生徒参加率は46.5%であった。	
	交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守を徹底する。	B	交通安全の意識を高めるため職員と交通安全委員会の生徒が年2回(5月、10月)街頭指導を行い、安全運転を呼びかけた。年度当初に自転車点検を一斉に行い、自転車整備への意識向上を図った。	

A～Dの評価については次のように規定する。

- A 十分に達成できた。
- B おおむね達成できた。
- C やや不十分な面が見られた。
- D 不十分であった。